

令和元年度 第1回鞍手町総合教育会議 議事録

- ・日 時 令和元年度5月24日 午前9時45分
- ・場 所 鞍手町役場 応接室
- ・出席者 町 長 岡崎邦博
教育長 栗田ゆかり
教育委員 藤井睦彦
教育委員 野中眞知
教育委員 木月芙美代
教育委員 堀角泰正

(事務局)

- 総務課長 三戸公則、庶務管財係長 神谷 徹
- 教育課長 古後憲浩

開 会 (9 : 4 5)

○総務課長 (三戸公則)

ただいまより、令和元年度 第1回鞍手町総合教育会議を開催させていただきます。本日、進行を務めさせていただきます総務課長の三戸と申します。よろしく願いいたします。

それでは、初めに岡崎町長がご挨拶を申し上げます。

○町長 (岡崎邦博) 挨拶

○教育長 (栗田ゆかり) 挨拶

○総務課長 (三戸公則)

それでは、早速、議題1の「鞍手町における今後の教育行政のあり方について」に入りたいと思いますが、その前に、古後課長より、本年度の児童数、生徒数の状況について、報告していただきたいと思います。よろしく願いします。

○教育課長（古後憲浩）

資料を見ていただきたいと思いますが、剣南小学校が全部で267名、剣北小学校が177名、古月小学校が66名、西川小学校が81名、新延小学校が115名。去年が小学生含めて740名でしたので、去年に比べてこれだけ多くなっているという現状です。鞍手中学校は378名。去年は383名で若干5名ほど少なくなっているところですが、小中学校の合計数でいきますと1123名で昨年度と変わらない児童数となっております。2枚目の資料を・・・児童数の推移の合計数が書かれています。今申しました平成31年度令和元年度につきましては1123名ですが徐々に、徐々に徐々に、また令和7年になりますと、926名に少なく減少ございます。以上で現状生徒数のご説明を終わりたいと思います。

○町長（岡崎邦博）

次はですね、学校ですね適正な配置、あり方についてということで、教育委員の皆様からいろいろご意見をいただきました。今年についてということになりますけれども、先ほど、これから児童生徒数の推移の説明もありましたけれども、今後はですねやはり児童生徒さんの減少を避けられない状況にあるっていうふうに考えています。そういった中で今は小学校、まあ中学校については1校に統合はされましたけれども、小学校についてはですね、鞍手町が3万人を超える人口があった時と変わらずまだ6校の小学校を抱えている状況で先ほどの推移を見てもですね、約・・・ここ平成29年から180名の児童さんが減る、1クラス分が確実に減っているということになります。まあそういった事を考えていきますとですね、やはり小学校の適正な配置、または小学校の適正な規模は、どの程度の規模がいいかということですね、近々の課題としてですね取り組んでいかざるをえないではないかなというふうに考えています。そういった意味で教育委員の皆様のご意見を拝聴しながら、町としての立場があるわけですが、ご意見を頂きながら、ごくごく近い将来には結論を出さざるをえないかなと考えています。そういった意味では今日このことが直進の議題になるかなと思いますが、皆様のご意見を是非ともお聞かせ頂きたいと思います。

○教育委員（藤井睦彦）

今はどこも子供たちの数も減ってきている状態ですね。住んでいる町民の皆さん方も増えてきとらんどあるんですけども、鞍手町の今後町づくりを、ある程度重点的にして人口増とか何とかいうそういうあれは・・・。

○町長（岡崎邦博）

地域間の中での要するに転入転出の状況を考えて・・・してもですね、人口減少をくい止めるだけの転入が図れるかどうか、ということを考えれば、それぞれ自治体として色々な対策をとって、人口減少については、歯止めをかけるという事を当然の如く

してくると思いますので、まずは転入転出の人口状態を考えた場合はですね、鞍手町は、だいたいひと月に4人とか5人とか、多くても7名ぐらいの出生があるという程度です。これを、私たちが先ほど言いました転入を含めて、自然増を図るということ、高齢者の方たちが亡くなっていく数を超えるような出生というのはまず望めませんので、これはもう人口減は前提として考えていく必要があるというふうに思います。

○教育委員（藤井睦彦）

一定期間鞍手に居てくださいよと、そういう色々な手段をやっていますね。鞍手がそこまでどうするかこうするかというのをまだそこまでいってない人たちを、少しでも1人でも2人でも入れていこうかという形は・・・。

○町長（岡崎邦博）

鞍手町で定住移住促進ということで、鞍手町に家を新築していただいたり、または中古の家を買っていただいたりというようなことについてはですね、移住定住で最大150万までの固定資産税を免除するというをしています。また若い方たちにアパートに住んでもらったのについては、ひと月2万円、年間24万円の3年間、の補助をしています。そういった移住定住については、補助金なり、固定資産税免除の形で取り組みはしています。

○教育委員（藤井睦彦）

町営住宅、あるじゃないですか。町営住宅は幸ノ浦の町営住宅は入り手があるわけですね。最近、若い人が何人か入ってきたというのがあるんだけど、六反田の町営住宅は空き家が出て募集しても、なかなか入って来ない。ああいう町営住宅は、住宅会社の提供とかあるでしょうけど、町営住宅の2軒を1軒にして新しい家を建てて若い人に住んでもらうとか何とかそういう方法を考えて人口増をやっていくか、はい、来てください！とか言ったって、なかなかやっぱり若い人が入って来ないと思うんですね。若い人向けの住宅を提供するというのが鞍手町にできるかどうかというのが、ちょっと私もわからないですけどね。財政の面でも色々な面があるでしょうけどね。新しいやり方をこれからやっていくか、人口増は望めないという気はしてますけどね。

○町長（岡崎邦博）

住宅政策については、民間の方にアパートを建設してもらった場合は年間500万円まで補助を出します、ということで、なるべく新しい住宅を民間の方につくってもらおうということで、取り組んでいます。町営住宅については色々な形があって、その中で住宅政策についても今後取り組んでいかなければならない部分が大いにあるんですが、なかなか住宅を建てるということはコストの面で相当な負担がかかると。今の

財政状況から考えると、何とか住宅政策に取り組まないといけない状況にはきてますが、というのも、ほとんどの住宅、特に木造が古くなったり、耐用年数が20年ぐらいいしてる住宅があったり、そういう古い住宅をどうするかという問題もあります。そういったことで住宅政策の取り組みは必要ですけども、新規に建てるということは難しい状況です。

○教育委員（藤井睦彦）

今、西川小学校はですね、県営に結構若い世帯おられまして、子供さんもですね。西川小学校は今のところ、あまり人口の減少はしてきてないですけど。これから先見てみると、室木も今の状況じゃかつかつ続けばいいんじゃないかと思いますがね。もう減ってくるのは目に見えて分かってますからね。中学校も1つですけど、小学校をどうやっていくか、小学校の子供たちをどう集めてどうするかということは、今から考えていかなければならないでしょうけどね。それにしても小学校の子供たちが増えないと、全体的に子供の数は減ってきますからね。そういう何か仕掛けをやって、鞍手町、ほんとに若い人が住みたいよという人が来るような形を今から先やらないと、よその市町村も一所懸命やってますから。役場、町自体がそういう仕掛けを考えてあるかなどうかなというのがあって私聞いたんですけどね。

○町長（岡崎邦博）

今言いましたように、移住定住については他の自治体に比べても遜色はないと考えてます。人が住むには住宅施設だけではなくて、色々な面で総合的に最終的に選択される、そのひとつの大きな要素としては教育環境、教育施設、教育内容。そういった教育に関するところが、特にお子さんを持ってるご家庭の方たちには非常に、住むかどうかを決める大きな要素になっていると思います。そういった意味でも今の6校をそのまま維持することが移住定住に繋がるのか、それとも規模なり適正な配置を考えて、例えば新しい学校を創るとか、そういったことが移住定住に繋がるのか、そのことを含めて私は今後のあり方を本当に近いうちに結論を出すべきじゃないかと思っています。

○教育委員（藤井睦彦）

若い人たちは、特徴、鞍手の小中学校の校舎も環境的な面も、ほんと素晴らしいなあと、他から見た人たちから、やっぱり鞍手町に来ようかって形になるんですね。今後そういうものを考えて小学校どうしていくか考えていただきたいし、我々も考えていかならんなどひとつね。今、学力とか色々言ってるけど、鞍手は学力的には決して悪いものではないし、今のところ、先生方も一所懸命頑張ってもらって補修やらしてますからね。なんかこう目玉的なものをね。鞍手の小学校いいなとか。中学校の改革をやった時に、他から鞍手の中学校来たいという人がおったんだけども、他の所の

役所さんから鞍手外から、鞍手に子供取られたらうちも少なくなるからだめですよということで、鞍手は鞍手、遠賀は遠賀、直方は直方という形になってしまったんですけどね。

なんかこう魅力的なものを今後考えていかないと。目に見えて分かってることだから。

○町長（岡崎邦博）

中学校のことで言えば、今、委員長が言われているようなことがあると聞いてます。特にスポーツをしている子供さんたちが、そういった学校施設の環境、体育館にしても野球場にしてもテニスコートにしても、環境が整っていることと、また指導者がいらしゃったということで、その町や市から鞍手に子供さんが来たいという話があったと聞いています。そういった意味で、やはり学校施設というのは移住定住にも非常に大きく関わってくるんじゃないかなと思っていますので、やはり私としては、そののこのところを含めて移住定住に繋がる学校を創っていくのが必要なんじゃないかなと考えています。

○教育委員（藤井睦彦）

それと、鞍手町は給食センターが古いじゃないですか。あれはもう考えてもらわな時期がきてるんですよ。町長自体どうされるかこうされるか、案ていうか、完全にはまだ考えてないでしょうでしょうけど。給食センターどうされるかですね。

○町長（岡崎邦博）

給食センターについては、なぜそういったセンター方式が当時とられたかというのはですね、小学校が6校あって中学校が2校あって、小中学校が8校あったわけですね。そういったことからやはりセンター方式が適切ではないかということで、センター方式をとった、と私は思っておりますけれども、今中学校が1校になりました。小学校も今のお話の延長からするとですね、いずれは小学校の適正な数も何校必要かという話になってくると思います。例えば1校2校または3校ということになりますと、今のセンター方式をとっていた当時の学校数に比べて半減かまたそれ以下になります。そうするとセンター方式による給食が適正かどうかにも繋がってくるわけです。ですから小学校が1校なるか2校なるか3校なるか色々議論があると思いますが、今後の生徒数のことも考えて、私は出来れば、新しい小学校を創るとすれば、そこに給食センターとして併設するということが一番望ましいんじゃないかなと思います。その小学校については自校方式ということになりますので、その小学校、例えばランチルームを作るとかそういったことで、出来立ての給食をすぐそこで食べることが出来ますし、中学校の配送にしても1校に配送すればいいわけですし、施設を作る面でも併設したほうが効率も良くなります。費用の面でも削減できるということ

になりますので、今すぐ給食センターを、本当に老朽化して厳しい状況にあると思いますが、今後もセンター方式を続けるかどうかということを考えれば、私はなかなか難しいと。

○教育委員（藤井睦彦）

今のところ小学校の方向付けができるまで給食センターも今の状況そのままです走るということですか。

○町長（岡崎邦博）

まあやむをえないですね。

○教育委員（藤井睦彦）

早急に対策を立てなきゃならん気がしとるんですがね。

○町長（岡崎邦博）

残念ながら、私は以前から給食の運営委員会に携わっていたこともありますし、給食センターの中身についても、最近はちょっと行ってないんで承知はしてませんが、以前は給食を作る器材自体も非常に老朽化した物を10年程前まで使っていました。私が運営委員になった際に、視察に行こうということで遠賀の給食センターに行った経緯があります。それである時点で4500万から5000万位かけて、フライヤーから何から全部入れ替えた経緯があって、今の調理器具はそれが残ってるんですけども、建屋についてはそのまま当時のままを使っている状況です。私は議員の際にも、小学校中学校の統合についてはずっと指摘はしてきましたし、その当時から給食センターの状況を承知してましたので、何とか早い時期にこの事に取り組んでいただければ良かったと考えていますけども、もうこの時期になって、どうしようもないぐらいの事にもなっていますけども、先ほども言いましたように私としては、小学校のあり方を考えた上で、その時に給食センターについても併設したいと考えています。

○教育委員（藤井睦彦）

今どこも、鞍手近隣の市町村見よったら、給食センターどこも綺麗になっとるんですがね、鞍手の給食センターもほんというところボロっちいけですね、もうちょっと早く何とかできんかなという気がしとるんですがね。

○町長（岡崎邦博）

中間については、東だったかな、給食センター併設する話を聞いています。

○教育委員（藤井睦彦）

子供たちの食の問題が絡んできとるからですね。

○町長（岡崎邦博）

ある意味、私は方式的には、給食は自校方式がいいんじゃないかと思うところがあって、一度そういう話をさせていただいたことがあるんですけど、なかなかやはり各校には難しい状況でしたけども、今後生徒数減少するということがありますので、なるべく自校方式に近い方法で考えていきたいと思います。

○教育委員（藤井睦彦）

もう一点ですね、岡崎町長が町長になられて、学校見学行ってもらってますかね。

○町長（岡崎邦博）

まだ行ってないです。

○教育委員（藤井睦彦）

まだ行ってもらってないですか。学校状況も町長に見ていただいて感じる事があれば、我々に言っていただくし、そういうものも、やっていかないといかんかなという気がしています。

○町長（岡崎邦博）

昨年の入学式が最後ですね。南小学校の入学式と中学校の入学式が最後。他の小学校についてはまだ行ってないです。

○教育委員（藤井睦彦）

今どこの小学校もそうやけど、中学校もそうでしょうけど、電子黒板を段々と使われるようになってきている。今から町長も考えてもらっとかないかんのはですね、結構お金はかかりますけどね、小学校どうかありますけど、そういうものも含んだところで、一回学校行ってもらって見ていただいて、そういう物を取り入れていくかどうかを町長に判断してもらわないといけませんし。

○町長（岡崎邦博）

もちろん ICT と言われる物も取り入れたいと思っていますが、それもやはり学校数が6校あるということで、これを平等にそれぞれ入れるとなるとかなりの費用がかかります。そういった資金繰りをみましても、教育環境を整える上でも、私は適正な学級数だとか規模学校、そして、じゃあどこに創ろうかというようなことを、冒頭に言いましたように早急に取り組んでいく必要があるんじゃないかなと思います。

○教育委員（藤井睦彦）

私ばかり、何か色々言って。あんただちも何かあったら訊いてごらん。

統合はしなければならないかなと、すごく感じておりますし、給食を自校給食にするのであれば、コスト面で考えて1つしかできないと思います。2つ創ると給食を作る施設も2つということで考えたらですね、お金のある町であればいいでしょうけど。

○庁用（岡崎邦博）

学校の数については、保護者の方たちを含めて、地域の方たちのご意見を拝聴しながら返答していこうと思っています。給食の自校方式というのは、先ほど言いましたように、それが私は一番じゃないかなと思いますが、中学校にはまた当然配食することになりますので、小学校1校に限らず給食等は話しながら、また適正な配置については考える必要があると思っています。

○教育委員（野中眞知）

給食の自校方式は決して反対ではなくて、私も出来れば好ましいやり方だと思うんですけども現在の町の財政を考えた時に、自校方式にすると億からかかるんですね。私も結構給食関係携わってきたので。現在の給食設備は過去の設備と全く違って給食方式もドライ方式とかいってやり方そのものも全部変わってきてますし、人件費もそれぞれの学校で人数に応じて対応していかないといけないので。実際に町として現実問題として、できるのかどうか。私も自校方式もセンター方式も全部経験してきましたので、自校方式の良さも分かるので、とてもいいなあと思うんですけど、実際できるのかなと。それで減給されたら困りますよね。結局命に係わるし、今非常に厳しいですね。給食。毎年ちょこちょこ調査入って来られますのでね。動作線から、段ボール1つでも調理場に一切持ち込み禁止ですから、そのための別の部屋がもう1つ必要ですし、もう1つ手前の部屋で洗って、つまり段ボールそのものが全く持ち込みできない、非常に厳しい。部屋数だって1つではだめだし、労働の基準からいってクーラーも設置しないとイケないですね。そうなってきた時に、これはできません、それはできませんという給食施設では困るなど。やっぱり命の安全を考えて、働く方が働きやすい給食施設を作っていただかないといけない。

他にもいっぱい学校の事しないといけない事多いですからね。決して反対ではない。自校方式の良さよく知ってるし、美味しいですよ、給食も。よくわかります。うどんがのびてないですね。本当に些細なことがよくわかるんですけど。現実でできるのかなと。すごく疑問視あるんですけど。

○町長（岡崎邦博）

自校方式というか給食を作るにもいろんな方法があると思うんです。自校方式で職員の方を町が雇用して運営するというような場合もありますし、今のように委託をして運営していくという方法もありますし、それは、近隣の市町村それぞれ、今もう先行してされてるところありますから、どのような方法が一番効率的なのか、そしてまた

安全を保つためにはどういう方法がいいのか、研究していくことが必要かと思いません。基本としては私が先ほど言いましたような自校方式を中心として、そこにセンターとしての機能を持たせて、中学校なり、小学校が1校でなければ他の小学校にも配送するというような形がいいのではないかと、費用の面のことはほとんど考えてない中での、私のプレゼンとしての考えなんですけど。

○教育委員（野中眞知）

凄く費用かかると思えますね。建設費今本当給食だいぶかかってしまう方式ですよ。各自校炊飯で、会社が入って、山田小学校かな。これドライ方式かな、結構最先端の方式でやってますし、設備何億かけて校舎建て替わってますものね。そのついでに給食施設も綺麗になってるんですけど。やっぱり物凄いお金が動いているみたいなので、できればそういう理想的なもの作っていただければ私も歓迎なのですが、一番心配なのは、出来るのか。

○町長（岡崎邦博）

例えばセンター方式ですとしても費用は変わらない。

○教育委員（野中眞知）

いや、違うと思います。センターの方が能率的。味が落ちるんですよ。どういっても落ちますね。

○町長（岡崎邦博）

その辺は研究の余地はあるかと。いずれにしても人件費だとか経常経費がどうなのか、当然考えていく次第ですけど、建設費を含めての話ですけど。それは研究する余地があると思います。

○教育委員（野中眞知）

さしあたり今の給食センターが現状維持という形にされるんですかね。

○町長（岡崎邦博）

今年度については床の張り替えをします。床を全面張り替える。デコボコなって水が溜まることがありますので、床を全部張り替えて、そういうことがないようにします。

○教育委員（野中眞知）

水が溜まったりしたら注意されますもんね。あそこにばい菌がたまるから、きれいに流れるように。流した水がきちんと流れるように設置、構造をよく言われますので

ね。

○町長（岡崎邦博）

はい。まず今年は床をします。

○教育委員（野中眞知）

あと、実際にできるかどうかを別にして、今の段階でご飯は炊けないですかね。前にも言ったんですけど。

○町長（岡崎邦博）

私が運営委員をしている時に、鞍手町産のお米を使ってご飯を炊こうという話をしたことがあるんですよ。そこで一番のネックになったのが配電。電気です。ご飯を炊くのに電気で炊くと、配線から何から全部必要になってくるんですね。学校で炊こうというと、学校の配線から何から全部必要になって、ただただ釜で炊くだけでなく、そういったことが必要になるということがありました。それでなかなか当時はできないということがありました。

○教育委員（野中眞知）

町長さんのお考えは、自校方式の場合、ご飯も学校で炊くというお考えも入れての自校方式ですか。

○町長（岡崎邦博）

勿論です。なるべく食材については、だいたい2～3割くらいの鞍手産の食材を使っていると思うんですけど、それぐらい。ただ全部をそういうふうに変えるということではできないでしょうけど、やはり鞍手でできるのは鞍手で使いたい。鞍手産の物を使いたい。それが食育の中で、例えば、この人参はこのおいちゃんが作った人参ということで、給食を食べる際に一言二言話をしてもらうだとか、そういったのが教育と聞いたことがあります。人参嫌いな子が人参食べられるようになったとか、そういうような話も聞きますからね。食育との絡みも含めて、できるものは鞍手産で使いたいと思います。

○教育委員（野中眞知）

産地の物を使ってするという、ずっと昔からその考え方あるんですよ。なんで定着しなかったかということ安定供給ができないんですよ。それと値段の問題ですね。お米の時も本来なら鞍手町のお米を使うのが一番いいんですけど、一時お米がものすごく出来なくて海外から輸入したことがありますよね。あの時も学校給食最優先で国が全部お米出してるんですよ。私も個人的にはタイ米食べましたけど、学校給食では国産のお米を食べることができたというふうに、そういうメリットも。緊急の時にで

すね、どういった災害が起こるか分からない、そういう災害が起きた時に、そういうところとある程度つながりを持っておかないといけない。勿論産地の物を使うというのはとても大事なことで、私もずっとそういう取り組み見てきましたので、理想だけではいけないというのをいっぱい経験してきましたのでね。その兼ね合い上手にやっていただきたいなあと。地域の方の要望で、使ってくださいというのが出てくると思うので、それは反対でも何でもありませんけど。学校給食というのはちょっと特殊なんですよね。安定供給、安価であること、緊急事態の時に無いことについては絶対起こしてはいけないという最優先。何をおいても学校給食最優先で入ってくるということが今までされてきたから、お米はあれだけの緊急の時にも米飯給食ありましたものね。そういうことを考えておかないと。その辺が難しいかな。

○町長（岡崎邦博）

難しいですよ。先日飯塚の事務所の所長さんが来て食育の話をしていくんですよ。農林事務所の人が。食育にいいということで、なるべく地元産のみたいな話です。ね、農林事務所の所長がそういう話をされに来られました。農林関係としては一方でそういうものをなるべく使ってほしいということと、県の教育委員会としては今言われるようなことが大前提であろうという話があると思うんですね。その辺の兼ね合いを見ながらすることも必要ですよ。

○教育委員（野中眞知）

できればそれで。難しいかもしれないけどせめてご飯は、一番大事なご飯は何とかならないかなと。少し少ない量のご飯にしても、せつかく床をするんだったら少しその時お金を入れてでもして、学校順番にセンターで作ったご飯を、今月はどこの学校にお持ちしますとかね。管理関係の業者との兼ね合いもあるでしょうけどね。

○町長（岡崎邦博）

あります。

○教育委員（野中眞知）

一概には切れないでしょうからね。それは私もよくわかるし。

○町長（岡崎邦博）

できないですよ。

○教育委員（野中眞知）

会社が潰れてしまいますものね。その辺の兼ね合いとか。パンが非常に減って、米飯が増えてきましたので、パン会社の社員難しい状態なってるので。

○町長（岡崎邦博）

今ご飯をパン会社で作ってるんですね。

○教育委員（野中眞知）

そうです。おいしくないですけどね。炊き込みご飯とかができないですよ。お寿司とかですね。だからある意味では、食育が非常に偏った部分が出てきてるし、そういう設備のある学校から比べると食育ができない部分が出てきてる。本当は鞍手町はこの近隣の中で一番に給食に非常に最先端に行く地域だったんですけどね。牛乳給食を開始してですね。

○教育長（栗田ゆかり）

昭和44年。私が中学生の時あったんですよ。

○教育委員（野中眞知）

すごいですよね。ただ、最先端だったのが一番後ろになってしまっただけで。何とか町長さんの力でもうちょっと、という願いがあるんですけど。

○町長（岡崎邦博）

最先端だった給食センターが今最低になっているということなんでしょうけど。

○教育委員（野中眞知）

自校炊飯との兼ね合いがあるので、センターをどうするか、私たちがお金の問題とかどうとか言えないんですけども、食育の中で行事食というのがあって、日本古来から、こうやってお寿司を食べてたんですよ、という日本伝統文化を教えるとか。食を通してね。そういうのができないんですよ。そういうささいなことだけれども、学校教育としてはとても大切なこと。子供たちが大きく成長していく中でとても大切なことですよ。そういうのが今ちょっと欠けてる状態だということですね。

○町長（岡崎邦博）

本来なら家庭の中で、今までは根付いてたところがあるんでしょうけど、それが今、なかなか無いからですね。

○教育委員（野中眞知）

ああ無理でしょうね。

○町長（岡崎邦博）

それはもう学校教育の中でしていくことになっていくんでしょうけど。いずれにしても冒頭に言いましたように早急に取り組まないといけない課題です。今までずっと

なんとなしにきてたけど、ここにきて一気にそういう状況になってるからですね。

○教育委員（野中眞知）

自校炊飯にした時に、だいたい何校くらいまでだったら、鞍手町として対応が可能なのか。経済的に。

○町長（岡崎邦博）

学校数ですか。

○教育委員（野中眞知）

はい。

○町長（岡崎邦博）

学校数。まあ学校規模に応じて、そういった生活面を詰めていくということになると思うんですよ。要するに児童生徒数何名分を作れるようにするかで考えればいいかなど、私自身思ってるんですけど。工場みたいになるんですよ。もうほとんど、あの人手がかからないような形に作っていると思うんですよ。私は実際見てないからわからないですけど。だからその学校で食べられる児童さんたちと配食していく女性ですかね、考えた上でできるものを、そこに設置することになると思います。これからどういうふうな児童生徒数推移していくかということに繋がってきますけどね。

○教育委員（野中眞知）

学校が統合される時に、そういうことも考えて予算考えないと。やっぱりお金をかかんがえないと。先立つものはお金ですからね。

○町長（岡崎邦博）

やっぱりお金の問題が一番ですけど、先進事例がいくつもありますからね。そういったところを研究させてもらいながら、予算的な面も。どうのような予算とか、国、県に対する助成というものがあるかどうか、財源についても研究する必要があると思います。今ここで話をしても財源の手当てがつかない。計画ができたけど、その先が進まないということになりますのでですね。

○教育委員（野中眞知）

町長さんとしては、どれくらいの学校数にしたいとか、考えがおありですか。中学は1つですよ。私は後で小学校も統合が必要だと基本的には思うんですね。

○町長（岡崎邦博）

どうもすみませんが、今ここで言わない方がいいかなと。考えとしてはあるんです

よ。まあ水摩教育長のときからずっと僕が言ってきてますから。必要だという話はしてきてますし、議会の中でもしてるからですね、今度は逆の立場で、自分がしていかないといけない立場になりましたからですね。

○教育委員（野中眞知）

個人的には私、統合は必要だなと。あまり人数少ない中では学校教育の本来の集団教育としては、あまり小さい学校だと、良さもあるんだけど、学校の持つ本来の良さというので欠ける部分があるかなという気がします。個人的な意見ですよ。委員会ではないです。どういう形でされるかというのは結構影響してくるか。それとやっぱり町民の説得ですね。それが、どれぐらいするにしても大変だなという思いがあります。

○町長（岡崎邦博）

エネルギーがいりますね。それぞれの学校が100年以上の歴史を持つてる学校が多いからですね、そういった意味で、じいちゃんばあちゃんが、その前の世代から、この学校に通ってたという方たちもいらっしゃるんで、学校に対する愛着というのはですね、それぞれの地域にそれぞれの方たちにあると思うんです。それを1つ2つにしようということであればですね、それはやっぱりエネルギーがいりますよね。私の考えとしては、学校というのはですね、前に言ったと思いますけど、第一義的には子供の教育環境を整えるものということですね、地域の方にはそれを最優先に考えてほしいというふうに思います。もう1つ学校の持つ意味としては、地域のコミュニティを醸成する場というのもあるんですよ。そういったものも今は特にあると思いますけども、それは二義的なものとしてですね、学校の校舎なり運動場、体育館は別の形で使っていただくとか、あと用途については地域の方たちと話し合うとして、学校本来一義的にある教育施設、教育環境として、子供さんたちにどうあるべきかというのを、住民の方たちにどう理解していただくかということが一番エネルギーがいるところじゃないかなと思います。

○教育委員（野中眞知）

ということは、とにかく今、結論的に言うと、センターの建て替えはしないという形になるんですかね。町長さんのご意向としては。

○町長（岡崎邦博）

はい。まあ最長、長くても5年以内には、きちんとした形にしたい。

○教育委員（野中眞知）

5年以内。

○町長（岡崎邦博）

はい。ですが本年度中にもできることから取り組んでいきたいと思っています。

○教育委員（野中眞知）

そしてさしあたり改善していくのは床打ち替えですね、最低限それだけをするということですね。次年度とかも予定がありますか。

○町長（岡崎邦博）

まだちょっとあがってきてない。あがってきてますか。

○教育課長（古後憲浩）

ええ、6月に保健所の立ち入り調査がありますので、おそらく給食センターの運営する側としては、日々衛生面をどうとるかを最善として、1つ1つできることを、例えば細かいことですが、水道の蛇口もですね、使用されてるのはもう型落ちなんです。全部。

○教育委員（野中眞知）

足でペダル踏んだりね。

○教育課長（古後憲浩）

そうそう。ペダル踏むか、ぐらつくか、そういうことから保健所から指導を受けていますので。今回も6月4日に指導ありますので、それを謙虚に、できることできない、保健所も鞍手町の給食センターの状況よくご存知なので、これ以上のこと言わないというのを特によくご存知なんです。ただ、その中でも、ちょっと僕も今回調査に入りますので、できないことですが理想としてはどうしたらいいですかと、詳しくお聴きしようと思います。工夫で衛生的に給食提供するにはどうしたらいいですかという、ここのお知恵をお借りする、これなんです。そこをいろいろお聞きしようと思っています。町長言われましたように、床の改修は給食のない夏休みに指定することにしてますので。あと電気も一部暗いところ修繕で済むのか修理が可能なのかと。そういうのは予算案入れてませんけど。そういうところですね、次年度保健所をしてどういうふうにしたら、安定的に衛生的に給食できるかと方針を掲げて来年度に向けて計画立てていきたいと思っています。

○教育委員（野中眞知）

5年以内。できるでしょうか、それまでに。美味しい給食と安全な給食を提供できるように何とか頑張ってくださいと思います。

○教育課長（古後憲浩）

職員の方が暑い。去年とても暑かったんです。エアコンないし。扇風機はかけられないです。埃が舞うので。大きな冷風機あるんですけど風の勢いが強すぎて、それで埃が舞ったらいけないというので、冷風出るんですけど、今度契約した業者の方に冷風機使えませんかと言われておるので。去年誰も倒れた方いらっしゃらないので。働く方の労働環境変えないといけませんので。そこらへん注意して、今年も暑いと聞いておりますので。以前に比べて、服装もフルフェイスみたいな感じですが、今までは帽子だけでしたが、もう全部。お菓子工場の、肌がここしかで出ないような感じでされておるので。

○町長（岡崎邦博）

一番は空調なんですよ。空調がつけられない。

○教育課長（古後憲浩）

そうですね。もうキューティクルから全部電源変えると5000万ぐらいいきかないです。

○教育委員（野中眞知）

5000万。

○教育課長（古後憲浩）

空調の電源引っ張ってくる配電盤施設から全部変えないと、給食センターの中を冷やすことができない。あとさっきおっしゃった給食センターの中、非常に狭いので、去年の予算査定の組みにもこういうこと考えて冷蔵庫をね、町長に相談して、そうですねと言ってくれたけど、やっぱりこう考えたら、あの中に入る冷蔵庫がなかったと。置けない。ていうことは先ほどおっしゃったように、1校でのご飯を炊く大きな釜を置いて、って置くスペースが少ないんですよ。そこらへん工夫をしながら意見をいただいて、できることだけしてるんですけど、なかなか、あの中でできることは今、今年やっと床の張り替えですね。あれも五百数十万しますので、まずは今後の将来に向けてどうなるかわかりません。この何年間だけでも衛生を保ってですね、もう衛生第一にしますので、ご理解ください。

○教育委員（野中眞知）

休憩室、入ってるんですか。

○教育課長（古後憲浩）

休憩室、上にですね、ちょっとそれもあんまりですね、言いにくいんですけど、10畳ぐらいの薄暗い・・・

○町長（岡崎邦博）

薄暗くはないけど畳の部屋です。

○教育委員（野中眞知）

クーラーは入ってるんですか。そこは。

○町長（岡崎邦博）

そこはエアコン入ってますかね。

○教育課長（古後憲浩）

入ってないです。申し訳ない。そういう状況です。

○教育委員（藤井睦彦）

最後に一点だけ。鞍手町は生活基準は周りの市町村に比べて高いほうですか、低いほうですか。

○町長（岡崎邦博）

塩川県会議員がなんかちょっと言ってたようにありますけど、鞍手の水準は近隣から比べて少し高いように言ってたようにな気もしますけど、定かではないですけど。

○教育委員（藤井睦彦）

いやその私がなんで訊きようかといったらね、最近鞍手の就学相談に出で、支援する子供たちが増えてきてるんですね。見てみると、家庭環境的なことが一番大きいんですね。福岡教育大の先生も言われるのは、お父さんお母さんたちの子供に対する支援というか感覚が鈍っとんじゃないかという判断ですね。子供ほったらかしとってもいいわという感じになっとるけ、子供たちもゲームしとるんやなかろうか。生活基準が低くなると、どうしてもそういう形になってくる可能性が高いからですね。

○町長（岡崎邦博）

よく言われるのは、例えば東大に入る学生の所得水準は親御さんが1000万以上の所得だとかいうようなことを言われますし、家庭の所得水準と学力というのは相関関係があるのかなというのはあるんですけど、その辺をどういうふうにかバーしていくかということになるとすれば・・・

○教育委員（藤井睦彦）

それとひとつはですね、生活水準が低ければ子供が朝、食事してこない子がおるんですね。食事をしてこない子というのは、見てたら運動能力も低いし、学力も低いし、全部繋がってきてるんですね。それで鞍手町も町として、生活的なものはどうな

のかと、そういう貧困家庭があるかどうか私もわからないけども、そういうお宅も町として今後ある程度は見ていく必要があるという気がしとるんですがね。

○町長（岡崎邦博）

ある町はですね、課外みたいな形で土曜日だとか、一旦普通の授業終わった後に、教員のOBの先生ですとか学生さんに、無償じゃないですけどもごくごく安く、希望者には教えているところもあると聞きました。それは週3日、4日だったかな、そうやって学力の水準を高めようとする取り組みをしている自治体もあります。

○教育委員（藤井睦彦）

私もわからんもんやけね、町としてそういう基準的なものもどうなのかということも、把握されてたら対応もしやすいんじゃないかなという気もするしですね。

○町長（岡崎邦博）

はい。把握しておきます。

○教育長（栗田ゆかり）

定数擁護関係では、鞍手地区としての部分では、鞍手町は高くはないです。元々鞍手地区そのものが低いものですね。その中で段々段々厳しくなっている状況にある。それは就学支援の子供さんについてですけど、間違いなく増えてきています。

○町長（岡崎邦博）

鞍手地区の中でも低いですか。

○教育長（栗田ゆかり）

その年によるんですよね。小竹が低かったり、鞍手が低かったり。割合があるんですよね。段々厳しい状況に。前は割に高かったんですよ。3つの中で、鞍手が一番。少しづつ下がってきている状況にあるということです。

○教育委員（藤井睦彦）

今、宮若市ですね、支援の子がすごいですね。もう段々増えてきてるんですよ。

○教育長（栗田ゆかり）

今一番多いですね。

○町長（岡崎邦博）

近隣と比べたら少し高いという話を聞いたことがあるんです。

○教育長（栗田ゆかり）

こちら側と比べたら、こちらが低くなる。

○町長（岡崎邦博）

比べるところで違うんですね。

○教育長（栗田ゆかり）

比較的子供が落ち着いてるし、授業もしやすいということで先生方から見ると、鞍手町は教育がしやすい町という認識でおられる方が。直方とか他の地区からここに来たいというお気持ちの方が多いいというのは間違いございません。

○教育委員（藤井睦彦）

まあそういう考え方から見てですね、学校関係もどう対応するか考えていかないかん例も出てくるしね、町としてどう対応できるかも私わからないですけどね。今子供たちで、義務教育は別やろうけど、高校まで授業料を無料にするとかいう話が出てきてるし、医療費も中学までは医療費無料という形はあるでしょうけど、そういう面ではどう影響してくるかわからんのですけどね。

○町長（岡崎邦博）

高校無償化になって。所得の制限ありますけど。

○教育委員（藤井睦彦）

突拍子もないこと訊いて申し訳ないですね。

○町長（岡崎邦博）

いえ。

○教育長（栗田ゆかり）

そしたら、いつかお話したように、町長さんにいつか学校に来ていただいて試食していただくとかね、お時間のある時に。お約束していただだけませんか、それは。

○町長（岡崎邦博）

各学校回って給食いただいて。

○教育長（栗田ゆかり）

この日のこの給食の日がいいとかですね。

○教育課長（古後憲浩）

好き嫌いはないですか。

○町長（岡崎邦博）

いやいや、それはそんなことはないですけど。できれば揚げパンがある時が。

○教育課長（古後憲浩）

揚げパン1学期に1回しか見ない。

○教育長（栗田ゆかり）

きな粉の。

○町長（岡崎邦博）

そうそう、きな粉の。

○教育長（栗田ゆかり）

美味しいですよ。どこか1校でも今年よございますよね。

○総務課長（三戸公則）

そろそろここで、よろしいでしょうかね。本日は大変貴重なご意見いただきまして有難うございます。以上をもちまして、令和元年度の第1回鞍手町総合教育会議を終了させていただきたいと思えます。本日はお忙しい中有難うございました。

一同 有難うございました。